INAX

小型電気温水器（先止め式）

EHP-301

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお同封の"取扱説明書"は、工事完了後お客様にお渡しください。

施工時に必ずお守りください。

以下は安全のための注意です。施工前に必ず読み、施工時に必ずお守りください。
この説明書では、誤った施工による事故を未然に防ぐため、工事者または使用者の安全に関する注意事項をマークをつけて表示しています。
マークの意味は次の通りです。施工前によく読み正しく施工してください。

施工の用語の説明

⚠ **警告** 作業を誤った場合に設置工事作業者が、又は設置工事の不具合によって人が、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。	⚠ **注意** 施工を誤った場合に、人が傷害を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

上記に述べる軽傷、物的損害、人とはそれぞれ次の様なものをいいます。
傷害　：治療に入院や長期の通院を要さない、けが、ヤケド、感電などをさします。
物的損害：家屋、家財および家畜、ペットにかかわる拡大損害をさします。
人　：本機器の工事に携わる者、または使用者を想定しています。ただし使用者は、購入者だけでなくその家族、来客、購入者から機器を譲渡された人なども含みます。

記号の説明

⚠「注意しなさい！」（上記の『警告』、『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）

「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

「必ずアースを接続しなさい！」

●この機器は必ずアース工事を行ってください。
※感電のおそれがあります。

●浴室など湿気の多い場所、また屋外へは設置しないでください。
※感電のおそれがあります。

●機器内の水が空の場合は、電源スイッチをいれないでください。
※機器の破損、ヤケドのおそれがあります。

●逃し弁からの溢水配管は、別売の排水セットを使用し、確実に配管施工してください。
※漏水のおそれがあります。

●給水の接続は必ず減圧弁を経由するように接続してください。
※圧力が高すぎて多量の漏水のおそれがあります。

●給湯管には、必ず断熱材を取り付けて、配管に直接手が触れないように施工してください。
※ヤケドのおそれがあります。

●この機器は、水圧0.75MPaまでの範囲でご使用ください。
※水圧が高い地域に設置した場合、止水時に缶体内部の水圧が高くなり逃し弁から水がふき出し続ける可能性があります。

●自家用井戸水は地方条例に基づく飲料水以外の水は使用しないでください。
※漏水のおそれがあります。

■開梱

・施工前に同梱部品をご確認ください。

本体

排水用ビニールホース

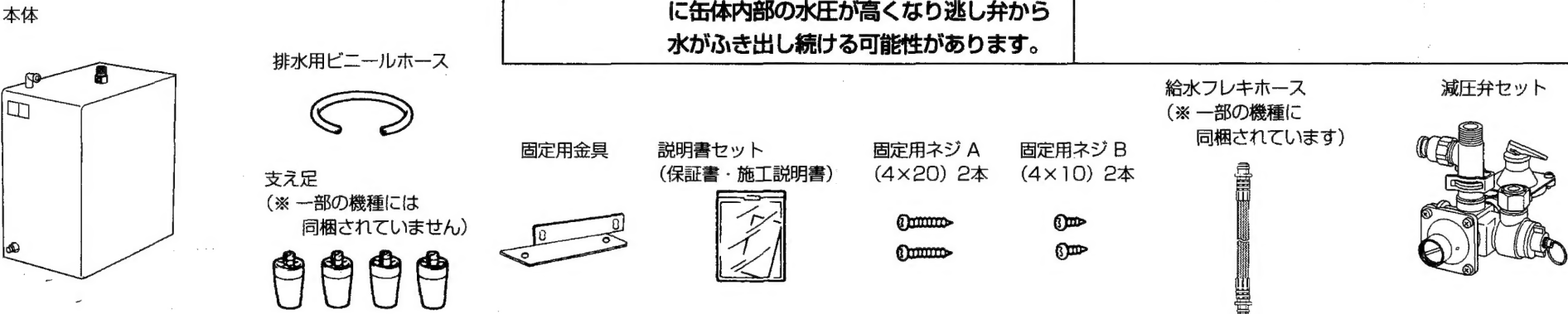
支え足
（※一部の機種には同梱されていません）

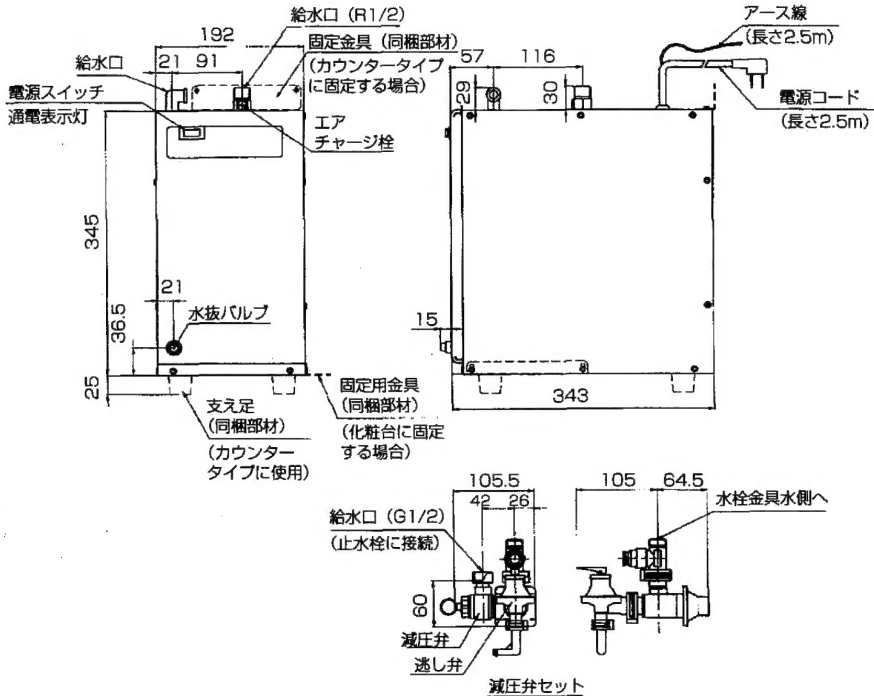
固定用金具

説明書セット
（保証書・施工説明書）

固定用ネジA（4×20）2本
固定用ネジB（4×10）2本

給水フレキホース
（※一部の機種に同梱されています）

減圧弁セット

注）同梱部品の排水用ビニールホースは、長時間使用しない場合、またはタンク内清掃時の排水などをするときに水抜バルブに接続してご使用ください。

■EHP-301寸法図

■必要別売品

・給水フレキホース：品番　EFH-65H、80H、100Hのいずれか
・排水セット：品番　EFH-3（カウンタータイプ用）、EFH-3K（化粧台用）、EFH-3MK（ミニキッチン用）のいずれか

（参考）給水フレキホースの長さ

品番	ホース長さ	使用対象
EFH-65H	約650mm	・間口サイズ800までの化粧台 ・温水器右面から止水栓までの距離が270mm以内の場合
EFH-80H	約800mm	・上記以上のサイズの化粧台 ・温水器右面から止水栓までの距離が270mm以上の場合
EFH-100H	約1000mm	

※止水栓位置、温水器の設置位置等により差異が生じますので、ご注意ください。

■取付手順

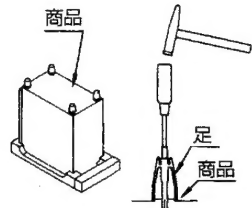
1. 温水器の固定

※ 温水器の固定方法は、カウンタータイプの場合と化粧台に取り付ける場合の2通りがあります。

〈1-1 カウンターに取り付ける場合〉

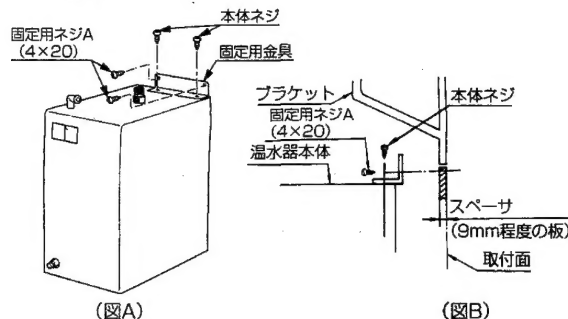
1-1-1. 足の取付け

洗面化粧台に収納せず床に置いてご使用の場合、排水の高さを確保するため足を取り付けます。
※ 洗面化粧台に収納してご使用の場合は不要です。
一度取り付けますと、取外しができません。

① 梱包の上緩衝材を台にして、商品を倒立させます。
② 足を本体の穴に入れてドライバーなどで確実に打ち込みます。

1-1-2. 温水器の固定

① 温水器に固定用金具（同梱部品）を取り付けます。その際、電気温水器本体に取り付けられているネジを一度外し、そのネジを使用して固定金具を取り付けてください。
② 取付面の強度が十分あることを確認した後、固定します。（図A）
③ カウンター取付ブラケットと固定用金具が当り取付面との間にスキマができる場合は、スペーサ（9mm程度の板）を入れてスキマをうめて②と同様に固定します。（図B）

※ 上記②、③の方法で温水器の取付ができない場合は、固定金具セット・KK-060（別売品）を別途用意してください。

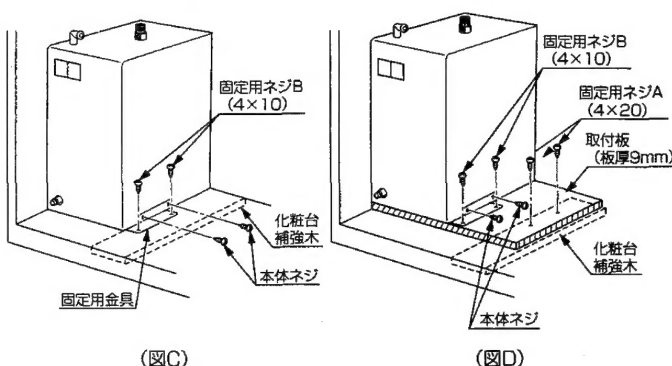
（図A）　（図B）

〈1-2 洗面化粧台に取り付ける場合〉

1-2-1. 障害物の確認

温水器本体を化粧台キャビネット内に入れ温水器の前扉より前方15mm以内に障害物がないことを確認してください。
※ 障害物があると点検の際に前扉が外れなくなります。

1-2-2. 温水器の固定

① 温水器に固定用金具（同梱部品）を取り付けます。その際、電気温水器本体に取り付けられているネジを一度外し、そのネジを使用して固定金具を取り付けてください。
② 化粧台底面の補強木の位置を確認し固定用金具の下に補強木があれば図Cの様に固定します。
③ 補強木と固定用金具の位置が一致しない場合は、図Dの様に取付板を別途準備して固定します。

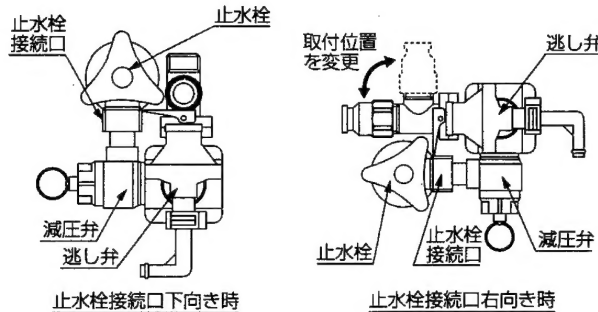
（図C）　（図D）

2. 減圧弁セットの取付け

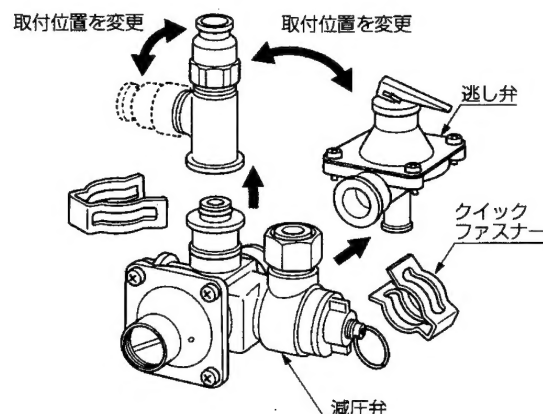
給水の接続は必ず減圧弁を経由するように接続してください。
※ 圧力が高過ぎて多量の漏水のおそれがあります。

※ 減圧弁セットの取付方法は、止水栓接続口の向きによって異なります。

減圧弁セットの接続は、必ず2丁掛にて行ってください。
接続部には必ず同梱のシートパッキンを使用して接続してください。
※ 漏水のおそれがあります。

止水栓接続口の向きが下あるいは右向きの場合

① 止水栓接続口と止水栓を接続します。

止水栓接続口の向きが上向きの場合

① クイックファスナーを外して、分岐継手と逃し弁を取り外します。
② 下図を参照に逃し弁の取付位置を変更して、減圧弁に再度取りつけます。
③ クイックファスナーをはめます。（2ヶ所）

④ 止水栓に、減圧弁セットの止水栓接続口を接続します。

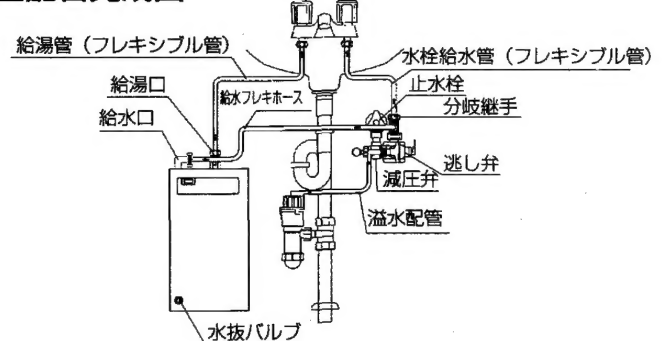
※ 止水栓接続口の向きが左向きの場合は、減圧弁セットの取付けはできません。止水栓接続口の向きを変更してください。

止水栓接続口が左向きの状態で減圧弁セットを接続しないでください。
※ 止水栓がゆるんで漏水のおそれがあります。

3. 逃し弁の溢水配管

① 溢水配管には必ず別売の排水セット（EFH-3、EFH-3MKあるいはEFH-3K）を使用し、指定の溢水配管を行います。
② 排水セットの取付けは、排水セットに付属の施工説明書に従って行います。

4. 配管手順（別売の給水フレキホースが必要です。）

■配管完成図

① 市販のステンレスフレキシブル管（1/2B:呼び径13mm）を、混合水栓の湯側及び水側に接続します。
② 別売の給水フレキホースの説明書に従って、減圧弁セットと本体を配管接続します。
③ 混合水栓の湯側に接続したステンレスフレキシブル管を温水器の給湯口に接続します。
④ 混合水栓の水側に接続したステンレスフレキシブル管を分岐継手に接続します。

ステンレスフレキシブル管の接続は、必ず2丁掛にて行ってください。
接続部には必ずシートパッキンを使用して接続してください。
※ 漏水のおそれがあります。
給湯管には必ず断熱材を取り付けてください。
※ 給湯側の配管は高温になりヤケドのおそれがあります。

■施工後の確認

●通水、流量の確認

温水器の取付けが完了しましたら、通水・流量の確認をしてください。

① 給水・給湯・同圧給水・排水管・排水セットが確実に接続されていることを確認した後、止水栓を開けます。
② 混合水栓水側のハンドルを開け、水がでることを確認したら水側のハンドルを閉め、湯側のハンドルを開けます。
③ 数分ほどすると吐水口から水が出ます。このとき、温水器は満水になっていますので、混合水栓のハンドルを閉め、各接続部からの漏水がないことを点検してください。
④ 混合水栓から必要以上の水量、水圧、あるいはオーバーフロー能力以上に吐水されない様、止水栓を調節します。

●電気工事

① 温水器取付位置により1.5m以内の所に100V・15Aの専用コンセントを用意します。
② 第3種の接地工事をします。

必ずアース工事を行ってください。
※ 感電のおそれがあります。

③ 温水器のタンクが満水であることを確認し、電源差込プラグを100V用コンセントに確実に差し込みます。
※EHP-301は450Wの電力を消費しますので、10A契約以下の家庭では大容量の電気器具との併用をしないでください。

●通電の確認

① 電源スイッチを「入」にして通電表示灯が点灯すれば正常です。

機器内の水が空の場合は、電源スイッチをいれないでください。
※ 機器の破損・ヤケドのおそれがあります。

② 沸き上がるまでに数時間かかります。沸き上がると通電ランプが消灯します。

●凍結防止

① 室温が0℃以下になる所で使用する場合は、必ず給湯管、給水管、同圧給水管、減圧弁、逃し弁、逃し弁ホースに凍結防止工事（凍結防止ヒーターによる）を行います。
（下図の ■■ 部）

室温が0℃以下になる所では必ず凍結予防工事を行ってください。
※ 凍結し、機器の破損や漏水のおそれがあります。

② 温水器は、電源スイッチを「入」のままにしておいてください。